



が ん づ め
(田草取りの農具)

農具は、戦後急速に発達したが、明治時代はみな手仕事で、田草取りもこの写真のような農具で、田を這うようにして働いた。

オカメ・田打車などと田草取り道具も変り、戦後は農薬がこれらの道具に変わった。

開館日……第2・第4日曜日

開館時間……午前9時～午後4時30分

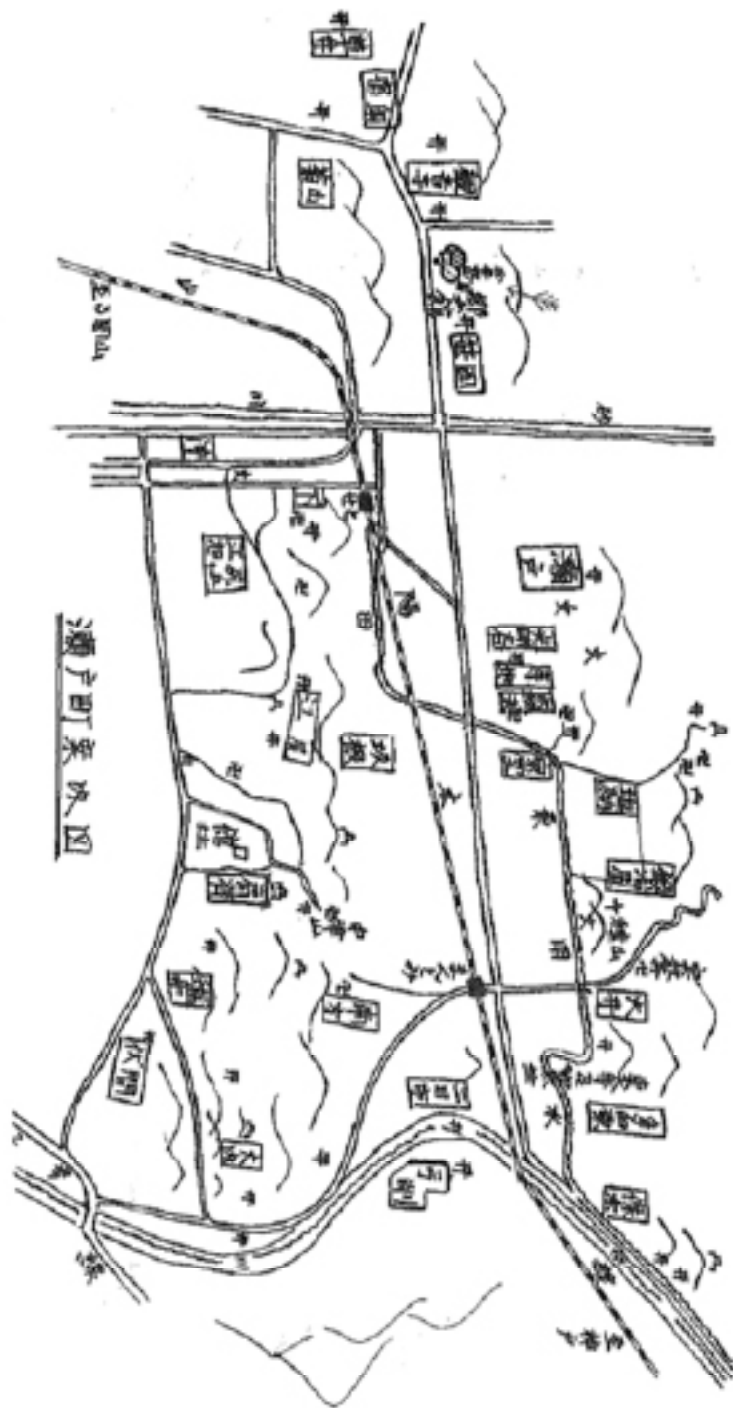
入場料……不要

所在地

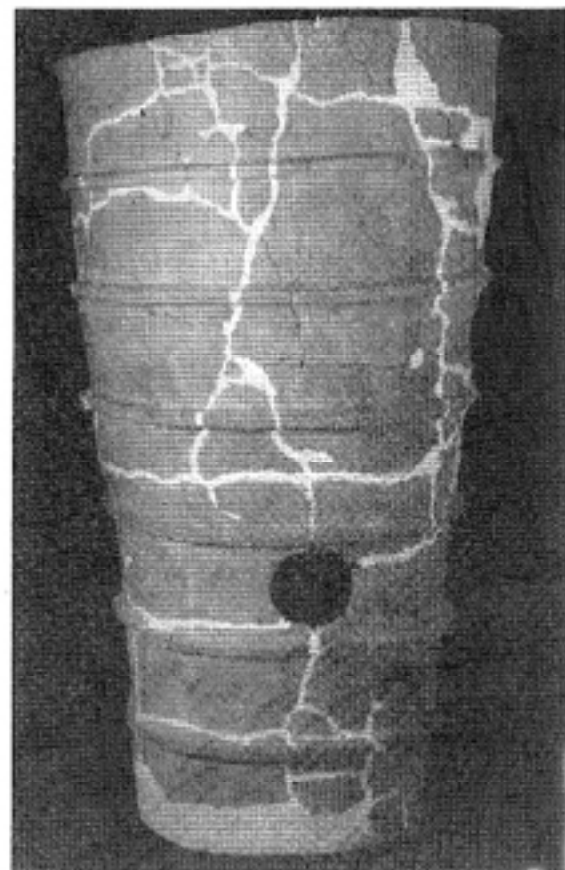
岡山県岡山市東区瀬戸町観音寺567

岡山市瀬戸町郷土館

☎ 709-0863



岡山市 瀬戸町郷土館



壱輪円筒棺 陣場山出土

岡山市教育委員会

瀬戸町は北側の山塊によって山陽町及び熊山町と接し、南側は同じく山塊によって岡山市に連らなっている。東西11.9km、南北 8.4kmの狭長な地域で、東に標高約 500mの熊山山塊があり、その下を吉井川が南流し、中央や、西よりに砂川が南北に貫流している。この狭長な平野部を、東西に山陽本線が走り、万富及び瀬戸にそれぞれ駅をおいている。

郷土館には町内出土の考古遺物と、近世地方文書、及び民俗資料を陳列展示してある。

展 示 品

新石器時代の石器は、石鏃・石斧・石包丁・石槍・石匙などを展示し、黒曜石や燧石の石片もある。

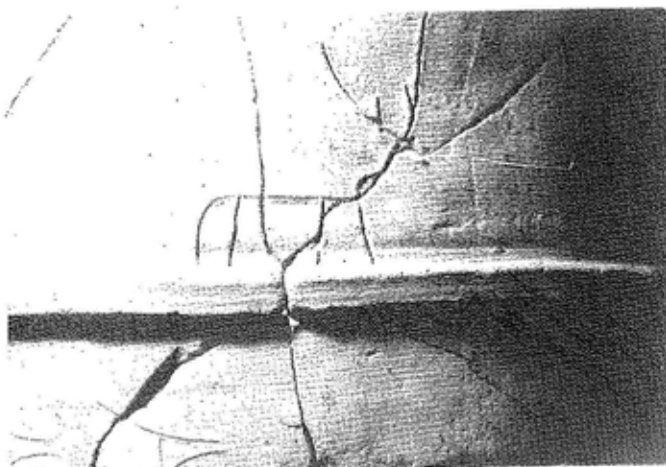
弥生時代の遺物は、ほとんど江尻、向山の寄宮遺跡と、陣場山遺跡から出土した壺棺・ガラス玉・くだ玉・銅鏃などのほか、特殊器台片や特殊壺の破片も展示してある。これらは、弥生時代後期の土埴墓群と一緒に出土したものである。



…… 町内出土の石器 ……



…… 弥生時代壺棺 ……



…… 埴輪円筒棺のシカの文様 ……

瀬戸町内の古墳

では5世紀はじめに造られた玉井丸山古墳が、全長およそ 140m 高さおよそ15mの前方後円墳で最大で、あとは5世紀代の小円墳と、6世紀以後の横穴式石室古墳のみである。陣場山古墳には小円墳に混じって、埴輪円筒を棺に使用した墓が9基も発見された。これらは、埴輪造り集団の墓であろうといわれている。

古代寺院址は万富地区平野部縁辺、森末・塩納・南方の3か所にあり、江尻・肩脊・坂根にも奈良・平安時代の寺址推定地がある。

塩納の吉岡寺址(仮称)には白鳳時代の塔心礎が残っている。



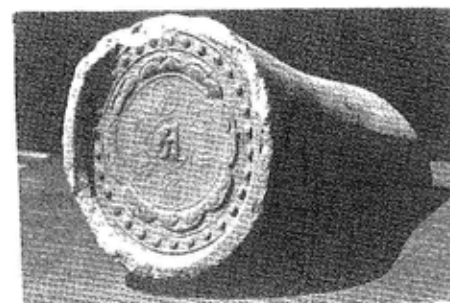
…… 森末妙興寺(地名)寺址出土の軒丸瓦 ……

東大寺瓦

奈良時代に、総国分寺として建てられた東大寺は、源平抗争によって治承4年(1180)平重衡によって焼かれた。

東大寺再建は、後醍醐天皇が勅進職になって、朝廷・幕府の協力のもとに始められた。その時の瓦が万富の梅で焼かれた。その窯址は10数基あって、国の史蹟に指定されている。建久4年(1193)～建仁3年(1203)頃に盛んに焼かれた。

瓦は、吉井川から船で輸送された。



…… 吉井川からあがった東大寺軒丸瓦 ……

民俗資料

民俗資料として現在は農具の展示品が多い。

こ、にか、げた大黒天様は土製の型物に着色されたもので、寄贈者(光本旭氏)によれば、正月に米俵の上に乗せて祀ったものだという。



…… 大黒天像 ……